

原爆放射能
医学研究所

研究所の老化と自己点検・評価
—創世記の神々の栄光の蔭で—

原爆放射能医学研究所
病理学研究部門
丹羽 太 貫

大学の組織のなかで、研究所は常に新しいものを発見し解明する研究が主体であり、年毎に繰り返される教育が大切な使命の学部とは少し目的を異にする。このような研究所にとって人事の回転は最も重要な問題である。

原医研での
自己点検・評価

原医研における自己点検・評価については、「広大白書」および「広大原医研年報」三十四号に詳しい。広島大学に原医研が設置されたのは昭和三十六年。本年度で設立三十二年を数える。その間に十部門を数える比較的大きな大学附置研究所に発展したが、組織として今一つの転換期であるように思われる。その理由の最たるものは学問上の要求によるが、それ以外に研究所の老化の問題がある。ここでは、点検・評価ではあまり詳しく論じなかった研究所の老化について特に取り上げたい。

研究分野の特異性

昭和二十九年における米国の水爆実験の死の灰による第五福竜丸事件により、我国では放射線被曝についての関

心が一気に高まった。そして全国の大学に放射線の生物影響関連の講座が次々と誕生した。これらの研究機関には、多くの研究者が参集したが、原医研もその一つである。当研究所が解明を目指している放射線生物影響の研究は、放射線のリスクの評価といったものから、純粋生物学や物理学など基礎的なものまで広い領域に亘る研究分野である。このような雑多さもあって、放射線生物影響研究の進展は一九八〇年代前半まで遅々たるものであった。しかし近年の分子生物学の進歩により、この状況は大きく改善されつつある。ところが、放射線関連研究は国内的にも小さい分野で、そのため人事が停滞しやすい。

いまの教授はわりと
歳をくっている

表は、当研究所のこれまでの教授の就任の年とその時点における年齢を示している。設立第一期の教授には、研究所設立に尽くした大立者として五十才を越える方が二名おられるが、その余は概して若く、とりわけA教授は三十五才で就任している。旧約聖書の創世記は世界の創造についてであるが、

原医研の創世記に記された教授は、研究所運営の実績を買われたためか、就任後五〜十年で他大学へ転出することが多かった。その後をうけた二代目も概して若い。昭和四十五年までの設立後十年間に就任した教授の数は、初代、二代目あわせて十五名、そのうち大物教授二名以外の教授就任時の平均年齢は四十一才である。しかしながら、これ以降の教授の就任年齢はとたんに高齢化する。昭和四十六年から今年までの二十二年間に、新たに就任した教授はわずかに十二名、就任時の平均年齢も四十七才である。これは創世記の十年における十五名の約半数で、しかも平均年齢は六才高い。教授がこの状態ではそれ以下はもつと厳しく、現在の助教授の平均年齢は四十五才、助手のそれは三十七才である。そして技官層においても同様である。なにも若ければ良いと言ふものではないが、これらの年齢に関する統計は、人事面での停滞と高齢化を示している。すなわち、栄光に満ちた創世記は幕を閉じて久しいのである。

さて、どうするか?

原医研は大学附置の研究所であり、

学部学生に対する教育義務をもたない。研究所にとって研究が最も大切なことは言うまでもない。研究者として通常最も力を発揮し得るのは、三〇代後半から四〇代前半である。この時期に教授として研究に専念できれば、我国の研究レベルのさらなる向上が期待できるが、現実には難しい。またこのように若くして教授になってしまうと、その後の人事が停滞するという弊害もある。すなわち、活発な研究と人事の停滞は、楯の両面の関係でもある。この矛盾に対しては、日本の現在の大学制度を改革し、少なくとも基礎研究の領域においては研究専用教授には若い方を、これがある年齢になったら管理専用教授に移行させるといったような制度はできないものであろうか?

大学制度全体におよぶこのような改正は現時点では一研究所の一教官の夢想にすぎない。原医研としていま実現できることは、対外的には人事の回転を図る一方で、所内的にはそれぞれの研究者が存分の力を発揮し得る体制の確立である。実力はあるながら少し歳をくってしまった助手・助教授層にとっては、自らの研究に自らが責任をとりうる体制の確立が大切である。このためには、従来の講座制の見直しも考えねばならない。

全国的な問題

世界的な冷戦構造の崩壊に示されるように、現在は価値の多様化の時代である。我国でも、この多様化はしばらく前から大学にも及び、大学院大学、院生倍增、大部門制、入試制度の見直し、等々さまざまな試みがなされてい

る。しかしこのような華々しい動きの蔭で、研究所における所員の高齢化は、設立の当初からある程度予想された構造的なものである。同様の高齢化は、我々に留まることがなく全国の全ての大学附置研や公立研究所の問題でもある。それにしても、創世記の時代は良かったね。

教授	年次	就任時年齢	転出
A教授	昭36	35	昭39転出
B教授	昭36	56	昭42退官
C教授	昭36	54	昭45退官
D教授	昭36	44	昭40転出
E教授	昭37	41	昭59退官
F教授	昭37	41	昭43辞職
G教授	昭37	40	昭47転出
H教授	昭40	38	昭56死去
I教授	昭40	40	昭60転出
J教授	昭40	39	昭50転出
K教授	昭42	39	平3退官
L教授	昭43	39	昭56転出
M教授	昭43	47	昭46転出
N教授	昭45	43	昭50転出
O教授	昭45	54	昭54退官
P教授	昭48	46	平1辞職
Q教授	昭50	49	平1退官
R教授	昭50	46	平5退官
S教授	昭51	44	
T教授	昭54	41	
U教授	昭57	51	
V教授	昭57	47	
W教授	昭59	51	
X教授	昭60	48	
Y教授	平1	47	
Z教授	平1	46	
Δ教授	平3	47	

表 原医研教授就任年代と就任時年齢